

昼生小だより

令和3年9月30日 No. 14



本年5月に6年生を対象に実施された「令和3年度全国学力・学習状況調査」の結果が文部科学省から公表されました。この調査は、子どもたちの学力・学習状況を把握し、授業や生活習慣の改善に役立てることを目的としています。

この調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校の教育活動の一側面であることなどを踏まえた上で、今回の結果分析と今後の取組についてお知らせします。今後、成果や課題を学校・家庭・地域で共有し、さらに取組を進めていきます。

1 教科に関する調査の結果

平均正答率 (%)	国語	算数
本 校	●●	●●
三重県	69	64
全 国	70.2	64.7

平均無回答率 (%)	国語	算数
本 校	●. ●●	●. ●●
三重県	3.74	2.62
全 国	4.34	2.75

各教科の平均正答率は、国語・算数とも全国平均を上回っています。新学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善・補充学習・朝の読書・自主学習・家庭学習の習慣化等に、繰り返し取り組んできた成果であると考えます。

しかし、各教科を領域（内容を系統的に分類したもの）別に見ると、算数の「変化と関係」・「図形」の平均正答率が低い傾向にありました。子どもたちの解答から、「異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解する」ことや「図形の面積について、量の基本的な性質を基に考察する」ことに課題が見られました。今後は、授業や家庭学習等で「単位量当たりの大きさを用いて比べる力」や「図形を構成する要素などに着目して、筋道を立てて説明する力」をつけていく必要があります。

無回答の割合は、国語・算数とも低く、問題に対して諦めずに粘り強く取り組んでいることがわかります。



2 できているところと課題のあるところ

○：できているところ

◇：課題のあるところ

【国語】

〈領域別正答率〉

領 域	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語の特徴や 使い方に関する事項
本 校	●●. ●	●●. ●	●●. ●	●●. ●
三重県	76. 3	58. 8	44. 1	69. 8
全 国	77. 8	60. 7	47. 2	68. 3

○4 領域すべてで県や国の平均正答率を上回った。

○「目的や意図に応じ、資料を使って話す」・「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」・「文の中における主語と述語の関係を捉える」問題は、100%の正答率であった。

◇「目的に応じ、文章と図表を結び付けて、必要な情報を見つける」こと、それを条件に合わせて書くことに課題がある。

〈こんな問題です!〉 ☞【資料】は最後のページに掲載してあります

※ 相川さんは、【資料】の —— 部を読み、面ファスナーのくっつく仕組みについて考えています。メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出しましたか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

○ヒントになったことと、面ファスナーのくっつく仕組みがわかるように書くこと。

○【資料】の中の文と「面ファスナーの仕組み」から言葉や文章を取り上げて書くこと。

○五十字以上、八十字以内にまとめて書くこと。

◇「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」ことに課題がある。

〈こんな問題です!〉 ☞【資料】は最後のページに掲載してあります

※ 相川さんは、【資料】を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われていますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

○面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中での使われ方について書くこと。

○【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。

○五十字以上、八十字以内にまとめて書くこと。



【算数】



〈領域別正答率〉

領 域	数と計算	図 形	測 定	変化と関係	データの活用
本 校	●●. ●	●●. ●	●●. ●	●●. ●	●●. ●
三重県	62. 3	54. 6	74. 1	74. 8	76. 3
全 国	63. 1	57. 9	74. 8	75. 9	76. 0

○「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」の4領域で県や国の平均正答率を上回った。

○「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する」・「条件に合う時刻を求める」・「棒グラフから、数量を読み取る」問題は、100%の正答率であった。

◇「速さを求める除法の式と商の意味を理解する」ことに課題がある。

〈こんな問題です！〉

※ 右の表は、インターネットで調べた道のりと時間と、たけるさんたちが歩いた道のりと時間を表しています。どちらの方が速いかを調べるために、下の表の計算をしました。

㊦ インターネット $1600 \div 20 = 80$

㊧ たけるさんたち $500 \div 7 = 71.4\cdots$

上の計算からどのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 1分間あたりに進む道のりは80mと約71mなので、㊦の方が速い。
- 2 1分間あたりに進む道のりは80mと約71mなので、㊧の方が速い。
- 3 1mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㊦の方が速い。
- 4 1mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㊧の方が速い。

道のりと時間

	道のり (m)	時間 (分)
㊦インターネット	1600	20
㊧たけるさんたち	500	7

◇「複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べる」ことに課題がある。

〈こんな問題です！〉

※ 図1の直角三角形が2つあります。

この2つの直角三角形を使い、同じ長さの辺どうしを合わせると、下の①や②の図形をつくることができます。

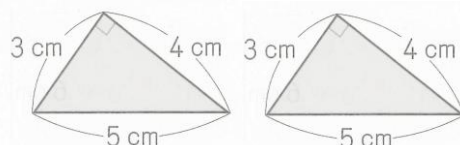
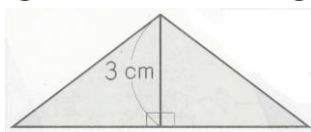
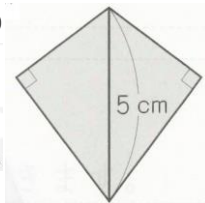


図1

①



②



左の①と②の図形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の 1 から 4 までの中から、1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 ①の面積の方が大きい。
- 2 ②の面積の方が大きい。
- 3 ①と②の面積は等しい。
- 4 ①と②の面積は、このままでは比べることができない。



3 児童質問紙より

児童質問紙は、子どもたちの生活や学習の様子をアンケート形式で問う調査のことです。生活の諸側面や豊かな心の育成に関わること、学習環境や授業等の教育活動などへの問いがあります。以下に、本校の結果と特徴をまとめました。

*数値は、各質問に「当てはまる・している」「どちらかといえば、当てはまる・している」と回答した割合（％）

【基本的生活習慣等に関すること】

○朝ごはんを毎日食べる習慣が定着している。

◇毎日、同じ時刻に寝ている児童の割合が、県・全国に比べ大きく下回っている。

◇ICT 機器を持っていると回答した児童の25％は、家の人との約束を守れていない。

質問項目	本校	三重県	全国
朝食を毎日食べていますか	●●. ●	95. 1	94. 9
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	●●. ●	80. 3	81. 2
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	●●. ●	90. 0	90. 4
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか *（ ）は持っていないと回答した割合	●●. ● (●. ●)	67. 1 (5. 3)	70. 1 (7. 2)

【自己有用感、達成感、挑戦心、社会への関心等に関すること】

○最後までやり遂げようとする児童の割合は、100％であった。

○保護者・地域の皆様のご協力により、地域行事へ参加している児童の割合は、県・全国に比べて上回っている。

◇将来の夢や目標を持っている児童の割合が50％にとどまり、県・全国と比べて大きく下回っている。

◇失敗を恐れず挑戦する児童の割合は、県・全国と比べて下回っている。

質問項目	本校	三重県	全国
自分には、よいところがあると思いますか	●●. ●	76. 0	76. 9
将来の夢や目標を持っていますか	●●. ●	79. 7	80. 3
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	●●. ●	85. 0	84. 3
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	●●. ●	71. 5	70. 9
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	●●. ●	95. 8	95. 5
今住んでいる地域の行事に参加していますか	●●. ●	65. 7	58. 1

【学習習慣、学習環境等に関すること】

○平日、学校の授業以外に30分以上読書をしている児童の割合は、県・全国と比べて上回っている。

◇家で計画的に勉強をしている児童の割合は、県・全国と比べて大きく下回っている。

◇平日、学校の授業以外に1時間以上勉強している児童の割合は、県・全国と比べてやや下回っている。

質問項目	本校	三重県	全国
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	●●. ●	72. 8	74. 0
学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか *1時間以上の回答	●●. ●	59. 6	62. 5
学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間読書をしますか。 *30分以上の回答	●●. ●	35. 6	37. 4

4 子どもたちの「学びと育ち」を支えるために・・・

【学校で】 学力向上と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、以下の取組を進めます。



1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

- ・事前学習やタブレット端末を活用し、「つなげる・広がる話し合い活動」を意図的に仕組み、子どもたちが、自分の考えを確かなものにしたり、見方や考え方を広めたりできる授業づくりを進めます。
- ・授業では、子どもたちが意欲的に取り組めるような「めあて」を設定し、それに正対した「まとめ」を行い、振り返りをするすることで、「何を学習したか」「どのようにわかる、できるようになったか」を明らかにして学習内容の定着を図ります。

2 読書活動の充実

- ・読書は、豊かな感性や知的好奇心を育み、読解力・表現力・コミュニケーション力を高めることにつながります。朝読・読み聞かせ・10読・読書チャレンジ・多読賞などを通し、読書活動を進めます。

3 自主学習の充実

- ・自主学習ノートの紹介やコメント記入、いつでも提出可など、子どもの興味や関心、意欲を引き出す自主学習の充実を図ります。

【家庭で】 生活習慣の確立と学びの土台づくりのために、以下の取組をお願いします。

1 家庭学習の習慣を身につけさせましょう。

- ・学習内容や学習時間について話し合い、低学年の頃から、毎日、計画的に取り組めるように、必要な声かけをお願いします。
- ・メディアに触れる時間、使用の仕方などのルールを話し合って決め、見届けましょう。



2 規則正しい生活リズムを身につけさせましょう。

- ・十分に質のよい睡眠は、心身の発達や回復に大きく影響します。また、日中の活動の満足度を高めます。「早寝・早起き」の習慣を身につけさせましょう。

3 家族で話す時間を持ちましょう。

- ・様々な話題で話をするすることで、子どもたちは社会に対する関心や意欲を高めたり、自分が進む方向を見つけたり、困難や失敗を乗り越えようとする習性を身につけたりします。一緒に話す時間を持ちましょう。



今後も学校・家庭・地域が一つになって、子どもたちの能力を最大限に引き出していきたいと思っています。ご理解・ご協力をよろしくお願いします。

相川さんの学級では、身近にある便利なものについて調べています。相川さんは、面フアスナーを選びました。次は、相川さんが読んだ【資料】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



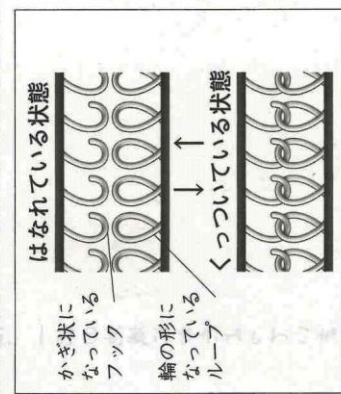
【資料】

面フアスナー

面フアスナーは、かさやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくっつけたり、はがしたりすることができる、とても便利な道具です。

面フアスナーは、一九四八年にスイスで起こったあるできごとがきっかけで開発されました。狩猟のため、愛犬をつれて山に登ったジョルジュ・デ・メストラルは、犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていることに気がつきました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実は先の曲がったかぎ状のトゲでおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラルは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面フアスナーを作り出しました。

一九六〇年に、日本ではじめて面フアスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に伝わりませんでした。広く知られるようになったきっかけは、一九六四年十月の東海道新幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバー（頭をあてる布）の留め具として、面フアスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、



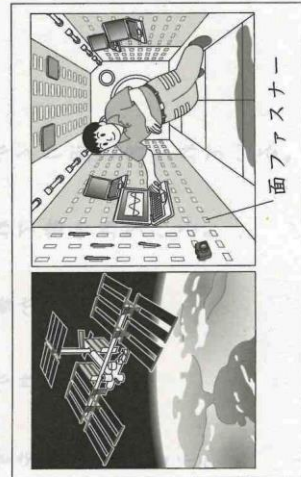
面フアスナーの仕組み

短時間でヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬホックやボタンより留め外しの簡単な面フアスナーの方が、留め具として適していたのです。誰もが注目する新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。

一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やかばん、かさなどの家庭用品をはじめ、サポーターや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていききました。布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることができる面フアスナーが適していたからです。中でも大流行したのが、面フアスナーを使った運動ぐつでした。ひもぐつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてしめぐあいを調節することができるよさが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く熱にも強い素材で作られているものもあります。

また、しっかりとくっつき簡単にはがすことができる面フアスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中は無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面フアスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面フアスナーがつけられています。ペンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるようになっているのです。

一人の気づきから誕生した面フアスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げてきました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる便利さが追求されています。



国際宇宙ステーションとその内部